

松本委員提案資料

表題	エネルギーの視点からのまちづくりについて
提案内容	<p>温暖化対策としての脱炭素化について、産業についての言及がありましたが、エネルギーについては、まちづくりにも非常に可能性があるため、追加で提言をします。</p> <p>まちを一つの会社と見たときに、1. 外に売って外貨を稼ぎ、2. 稼いだお金を地域内でお金を回し、3. 地域外から買うものを減らしてお金の流出を防げば、地域経済は確実に良くなります。</p> <p>電気やガソリンなどのエネルギーは、3の地域外から買っているものなので、より少ない量にできれば、市民の可処分所得が上がり経済が活性化します。</p> <p>そのために有効なもの1つは、空間の「断熱化」です。住宅やオフィス、学校など、断熱性能が低いものが多く、いくらエアコンで冷やして、ストーブで温めても、断熱性能が低いと、どんどん熱が外に逃げてしまいます。その分、余計にエネルギーが必要で、お金がどんどんかかっています。日本の空間は、無断熱に近いので裸にホッカイロと揶揄されるほどです。</p> <p>それを断熱化することで、熱が逃げない環境をつくれれば、快適だけでなく、エネルギー消費と費用を抑えることも可能です。</p> <p>また、断熱化され気温差が小さい住宅は、ヒートショックによる死亡率も下がり、市民の健康も後押しできます。</p> <p>GX の文脈は、掛け声はよいですが、あまりインセンティブが生まれません。家計や収益に直結する話であれば、多くの人が喜んで実践が可能になります。</p> <p>断熱改修は、国の後押しも強くなっていますが、いわき市としても、積極的に行うべきものではないでしょうか。地域全体のエネルギー消費と費用を抑えて、消費に回るお金を増やせば、改修費用を上回る経済効果が見込めるはずです。</p> <p>夏場や冬でも快適な居住環境、学習環境、職場環境を手に入れつつ、環境にやさしく、経済効果も高い取り組みは、他になかなかないと思います。</p>
提案理由・提案の背景など	<ul style="list-style-type: none">・電気代、ガソリン代などのエネルギー価格の高騰・市民の可処分所得の向上・市民の健康向上・脱炭素化への取り組み